人と自然と文化にやさしい地域づくり

平成31年　No.1286

# 山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

## 明日を拓く ― 成果を検証する ―

# 4

平成30年度　第71回山口県学校美術展　推奨作品
「時間」
周南市立周陽中学校　3年生（受賞時）迫田　光希

## ■特別号　明日を拓く

■2019年度（一財）山口県教育会の活動
明日を拓く　― 成果を検証する ―

■平成30年度の助成に関する事業を紹介します

■わたしの学校経営
宇部市立東岐波小学校　校長　平野　幸世
下松市立末武中学校　校長　厚東　和彦

■わたしの学級づくり
岩国市立岩国小学校　教諭　佐藤　康子
美祢市立大嶺小学校　教諭　澁谷　寛子
長門市立仙崎中学校　教諭　峠田　敦子
下関市立日新中学校　教諭　藤野　貴一

■わたしの潤い
由宇支部　田中　徹
光市部　重國　敏子

■前会長 井上 洋 先生を偲んで
山口支部　沖浦　初孝

■入会案内

一般財団法人　山口県教育会
〒753-0072　山口市大手町２－18　TEL 083-922-0383　FAX 083-922-5768
URL http://www.ykyoikuk.or.jp　E-mail ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第１号　毎月１日発行　発行人　会長：倉増誠彦／編集長：山本晃久

# 2019年度（一財）山口県教育会の活動

## Ⅰ　活動方針

**明日を拓く**（６年次／７年計画）
— 成果を検証する（１年次／２年計画）—

山口県教育会は、民間教育団体として防長教育の伝統を受け継ぎ、①教育世論の高揚　②教育研究の奨励　③教育環境の整備　④教育事績の顕彰　⑤文化遺産の継承、に創立以来一貫して取り組み、山口県教育の振興に寄与してきた。

平成26年度から、主題「明日を拓く」を掲げ、「混沌とした社会の中にあっても、将来に明るいビジョンを描き、自分の進むべき道を力強く切り拓いていく力の育成」をめざして、７年計画で主題達成のための各種事業を展開している。

平成26年度から２年間は、副主題を「目標を明確にする」として、各事業が現在の状況に適応し会員の要請に応えているかどうか目的、内容等を見直し、各事業の目標を明確にした。平成28年度から３年間は、副主題を「豊かな実践に高める」として、各事業の内容充実に取り組み、助成事業や現職教員の研修事業など多くの事業について、会員に会費を直接還元する事業になるよう改革を進めた。

主題「明日を拓く」のもとでの活動もあと２年間になった。本年度から副主題を「成果を検証する」とし、これまで改革してきた事業の成果を検証して、得られた成果をより強固なものにしていく。

２年計画の第１年次にあたる本年度は、助成事業の検証に取り組む。これまでに得られた成果をもとに、地域活動振興助成事業を支部活動振興助成事業に名称変更して助成の対象を明確にしたり、各助成事業の実施要項を大きく改訂して助成金額、助成件数を明記したりして、会員の要請に応える助成事業になっているのか検証していきたい。

さらに、日本連合教育会全国大会滋賀大会へ柳井市の現職教員を中心にして40人の会員を派遣するなど、現職教員研修事業の拡充にも取り組む。これまで、全国大会への現職教員参加について段階的に取り組み、各学校等から高い評価を受けているが、現職教員の県外研修としての成果を検証したい。

本年度は、「第18回やまぐち教育の日・第47回教育県民大会」を柳井市において開催する。関係主催団体や柳井支部と密接に連携して、柳井市の教育の特色が表れる大会にし、教育世論の高揚を図りたい。

## Ⅱ　事　業

### １　教育世論の高揚事業

**○やまぐち教育の日・教育県民大会の開催**

**第18回やまぐち教育の日・第47回教育県民大会柳井大会**

**主催**　（一財）山口県教育会ほか22団体
**期日**　2019年11月16日(土)
**会場**　アクティブやない
**大会主題**　「　明　日　を　拓　く　」
　　～伝えたいふるさと・つなげる絆～
**内容**
・地域活動の発表（発表団体調整中）
　阿月明神太鼓（小学生）
　伊陸神楽（小学生）
　月性剣舞（中学生）
　合唱（柳井の歴史）（混声合唱））
・開会行事
・「金子みすゞ賞」童謡詩、「わたしの志」作文入賞者表彰及び朗読
・実践発表及びパネルディスカッション
　実践発表　柳井支部の取組
　　「ふるさと再発見（５年間）のあゆみ」
　パネルディスカッション
　　「伝えたいふるさと・つなげる絆」（検討中）
・閉会行事

**○教育活動の推進**

**「元気やまぐち」三つのアクション**
（平成17年度山陽小野田大会にて採択されました。）
・あいさつ　返事で　明るいやまぐち
・笑顔でつなぐ　安心やまぐち
・ゴミ　落書きのない　美しいやまぐち

**○地区別教育振興フォーラム**

**時期**　2019年11月１日(金)～７日(木)の教育週間を中心に開催する。
**会場**　各地区の開催担当支部が決定する
**内容**　地域活動の発表、講話、シンポジウム

**○教育活動の情報発信**

・情報紙「山口県教育」の編集・発行
　特別号（４月・10月増ページ）
　各月シリーズテーマ
　**「郷・協・興」**（きょう・きょう・きょう）
　　協力、絆、地域の盛り上がりに関して紹介します。
　**「人・任・仁」**（にん・にん・にん）
　　人柄や職に対する思い、人の優しさを紹介します。
　**「今どき学校・園」**
　　教育活動や教育課題等の取組を紹介します。
・ホームページの随時更新

**○各種キャンペーンとの連携推進**

# 明日を拓く －成果を検証する－

## 2　教育研究の奨励事業

### ○豊かな実践に高める創造ある研究への助成

### ○教育維新・青年教師の集いの開催

**第10回青年教師の集い**（事業名変更）

**期日**　2019年8月8日(木)～9日(金)

**会場**　パルトピアやまぐち

山口大学教育学部附属山口中学校

**参加者**　小学校教諭、中学校教諭　各6人程度

**内容**　「小中学校理科」

－観察・実験を中心とした探究活動から、理科の面白さと有用性を見いだす－

指導実践例に基づく発表、意見交換

指導案作成、模擬授業、研究協議

**申込締切**　2019年6月7日(金)

### ○日本連合教育会研究大会への参加

**第71回日本連合教育会研究大会滋賀大会**

**期日**　2019年7月25日(木)～26日(金)

**会場**　びわ湖大津プリンスホテル

・全体会

・記念講演　押谷　由夫　氏

（武庫川女子大学大学院教授）

・映　写　びわ湖フローティングスクール二代目「うみのこ」の活動状況

・分科会　教育課程、道徳教育など10分科会

・参加経費　参加費、交通費、宿泊費は、（一財）山口県教育会が負担する。

**参加申込**　（一財）山口県教育会へ

### ○学校教育、社会教育の支援

**現職研修助成事業**（事業名変更）

**対象**　個人、学校、同一校職員によるグループ、複数校職員によるサークル

**対象とする研修**

・教育課程の編成、実践、指導法の工夫、教材開発、評価の研修など

・研修会、研究発表会、講演会等の開催及び研究集録等の刊行など

・研究発表大会、学会への参加や先進地の視察など

**助成金額及び助成件数**

| 種別 | 助成金額 | 助成件数 | 留意点 |
|---|---|---|---|
| 学校 | 5万円<br>4万円<br>3万円 | 10件程度<br>20件程度<br>30件程度 | 1校につき1件とする |
| グループ<br>サークル | 4万円<br>3万円 | 3件程度<br>5件程度 | 1校につき1件、大規模校は2件以内とする |
| 個人 | 3万円 | 5件程度 | |

**申込締切**　2019年6月14日(金)

**教育団体研究助成事業**（事業名変更）

**対象**　・教育団体が主催する本県で開催される全国大会、中国四国大会等

助成金額　5万円～10万円

・小学校教育研究会、中学校教育研究会、公立学校教頭会が実施する教育研究会

助成金額　各団体につき15万円

**申込締切**　2019年5月31日(金)

## 3　教育環境の整備事業

### ○「人と人」「人と自然と文化」を大切にする地域活動の支援奨励

**地域活性化活動助成事業**（事業名変更）

**助成の対象**

・趣旨に適合した一般団体及び学校

・学校と連携して地域の活性化に取り組むPTA

・学校と連携して地域の活性化に取り組むグループ、団体

**助成の対象となる活動**

・地域の活性化を図る計画的、組織的な教育活動

・学校支援の活動、地域の子どもたちの教育支援及び教育環境整備の活動

・地域の伝統文化、文化遺産等の継承活動

**助成金額及び助成件数**

| 助成金額 | 助成件数 | 留　意　点 |
|---|---|---|
| 5万円 | 10件程度 | ・1団体につき1件とする。<br>・1校につき1件とするが、大規模校が諸団体と連携する場合は2件以内とする。 |
| 4万円 | 20件程度 | |
| 3万円 | 30件程度 | |

**申込締切**　2019年6月14日(金)

### ○支部組織の充実

・支部研修の充実

・会員目標　12,000人

（小・中学校教職員の70％加入を目指す）

・団体、機関への教育会加入の勧誘

・支部活動費の有効活用

### ○地域活動の推進

**支部活動振興助成事業**（事業名変更）

**助成の対象**　山口県教育会支部

支部と連携する諸団体

**助成の対象となる活動**

・支部組織、機構の整備、充実活動

・教育世論を喚起、結集する活動

・地域の伝統文化、文化遺産等の継承活動

・青少年の健全育成活動

・学校、地域との連携活動

・会員増募の取組

**助成金額**

年間助成金総額を100万円以内とし、その範囲内で事業内容等を勘案して助成金額を決定する。

**申込締切**　2019年7月5日(金)

### ○学校、公民館（地域交流センター）、自治会等との連携

・学校、公民館（地域交流センター）、自治会との連携活動の充実

・公民館（地域交流センター）祭り、地域の祭り等におけるＰＲ活動

### ○モデル地区、支部指定事業の推進（平成30年度防府支部）

# 明日を拓く －成果を検証する－

## 4　教育事績の顕彰事業

### ○「わたしの志」作文の募集と表彰

**第11回「わたしの志」作文募集**

- **募集部門**　小学校（４年生以上）、中学校、高等学校の３部門
- **賞**　山口県教育委員会教育長賞（最優秀）　一編
  山口県教育会長賞（優秀）　各部門一編
  松風会理事長賞（優秀）　一編
  努力賞（佳作）　各部門数編
- **表彰**
  第18回やまぐち教育の日・第47回教育県民大会柳井大会において表彰式を行う。
- **表彰作品の発表**
  最優秀作品は、第18回やまぐち教育の日・第47回教育県民大会柳井大会において作者が朗読を行うとともに、山口県教育会が発行する情報紙「山口県教育」に掲載する。
  最優秀作品を含む優秀作品は、山口県教育会のホームページにおいて公表する。
- **募集締切**　2019年９月10日(火)

### ○松陰に親しむ会（平成30年度防府支部・萩支部）

### ○松陰の道歩行大会（平成30年度防府支部）

### ○松陰研修グループの支援（平成30年度萩支部）

### ○郷土の偉人・文人に学ぶ会（平成30年度防府支部）

### ○徳地幕末維新歴史放談の会（平成30年度佐波支部）

### ○松風会共催事業の支援

## 5　文化遺産の継承事業

### ○「金子みすゞ賞」童謡詩の募集と表彰

**第32回「金子みすゞ賞」童謡詩募集**

- **募集部門**　小学校、中学校、高等学校・一般の３部門
- **賞**　山口県教育委員会教育長賞（最優秀）　一編
  山口県教育会長賞（優秀）　各部門一編
  努力賞（佳作）　各部門数編
  学校賞　一校
- **表彰**
  第18回やまぐち教育の日・第47回教育県民大会柳井大会において表彰式を行う。
- **表彰作品の発表**
  最優秀作品は、第18回やまぐち教育の日・第47回教育県民大会柳井大会において作者が朗読を行うとともに、山口県教育会が発行する情報紙「山口県教育」に掲載する。
  最優秀作品を含む優秀作品は、山口県教育会のホームページにおいて公表する。
- **募集締切**　2019年９月10日(火)

### ○支部、地域の文化活動の支援

- **地域の伝統行事「もみ山」の保存、継承**（平成30年度大島支部）
- **伝統芸能「島中太鼓」継承活動**（平成30年度大島支部）
- **月性剣舞保存会継承活動**（平成30年度柳井支部）
- **切山歌舞伎保存継承活動**（平成30年度下松支部）
- **鹿野さんさ踊り保存会継承活動**（平成30年度周南都濃支部）
- **徳地人形浄瑠璃継承活動**（平成30年度佐波支部）
- **徳地重源太鼓継承活動**（平成30年度佐波支部）

## 6　編集出版事業

- 「高校生活への道しるべ」の編集出版
- 「思春期の子どもをもつ親の悩みに答える20章（改訂版）」の頒布
- 「学校給食簿」「補助簿」「教育必携」等の頒布
- 「松陰読本」「わたしと小鳥とすずと」等の頒布
- 吉田松陰先生座像の頒布

## 7　会館管理運営事業

- 研修室、会議室、ホールの稼働率向上
- 計画的な改修の推進

**※山口県教育会館外壁補修工事**
平成30年12月12日(水)～2019年９月２日(月)

詳しくは、ホームページで
（http://ykyoikuk.or.jp）

# Ⅱ　事　業

## 一般会計

収入の部　（単位：円）

| 科　目 | 予算額 | 備　考 |
|---|---|---|
| 基本財産運用益 | 1,793,000 | |
| 受取会費 | 18,065,000 | 通常、終身等会費 |
| 受取補助金等 | 686,000 | 山口市、民間団体等 |
| 受取寄付金・雑収益 | 101,000 | |
| 評価損益等調整 | 13,861,000 | |
| 収入合計 | 34,506,000 | |

支出の部

| 科　目 | 予算額 | 備　考 |
|---|---|---|
| 事業費 | 29,651,000 | 助成金、活動費等 |
| 管理費 | 4,855,000 | 会議費、通信費等 |
| 支出合計 | 34,506,000 | |

## 事業会計

収入の部　（単位：円）

| 科　目 | 予算額 | 備　考 |
|---|---|---|
| 事業収益 | 6,553,000 | 出版事業 |
| 雑収入 | 461,000 | |
| 収入合計 | 7,014,000 | |

支出の部

| 科　目 | 予算額 | 備　考 |
|---|---|---|
| 事業費 | 6,010,000 | 印刷費、運搬費等 |
| 管理費 | 975,000 | 会議費、手数料等 |
| 評価損益等調整 | 29,000 | |
| 支出合計 | 7,014,000 | |

## 会館会計

収入の部　（単位：円）

| 科　目 | 予算額 | 備　考 |
|---|---|---|
| 事業収益 | 12,800,000 | ホール・研修室使用料 |
| 受取負担金 | 19,700,000 | 入居団体負担金 |
| 雑収入 | 400,000 | 自販機、利息等 |
| 経常損益等調整 | 7,170,000 | |
| 収入合計 | 40,070,000 | |

支出の部

| 科　目 | 予算額 | 備　考 |
|---|---|---|
| 事業費 | 27,300,000 | 修繕費、消耗品費等 |
| 管理費 | 12,770,000 | 光熱費、会議費等 |
| 支出合計 | 40,070,000 | |

# 平成30年度の助成に関する事業を紹介します

## 平成30年度教育研究・地域活動等助成事業の実績

| 事　業　項　目 | 助　成　額 |
|---|---|
| **奨励事業助成** | |
| ・**現職研修奨励事業**（全90件） | 3,230,000円 |
| 　（個人・学校・グループ・サークル） | |
| 　（小中学校教育研究会・公立教頭会） | |
| ・**地域活性化活動奨励事業**（75件） | 2,360,000円 |
| **地域活動振興助成**（11支部20件） | 662,000円 |
| **熟年活動支援助成**（山口大学メンネルコールOB会） | 50,000円 |
| **モデル地区・支部継続事業助成**（防府支部右田地区・華城地区） | 45,100円 |
| 総　額 | 6,347,100円 |

ホームページの「事業」タグから、助成を行った団体の一覧及び研修の取組概要を閲覧することができます。研修題目や活動名をクリックし、中身の濃い実践を、ぜひ学校の取組や自分の研究実践、地域での活動の広がりなどにお役立てください！！

### 平成30年度　現職研修奨励事業　助成団体一覧

【個人の部】

| No. | 申請者 | 職・氏名 | 研修題目 |
|---|---|---|---|
| 1 | 岩国市立岩国小学校 | 教諭　高木　誠司 | 「評価・改善」の場面を意識した授業を指導の工夫 |
| 2 | 柳井市立柳井小学校 | 教諭　角田　真由美 | 支援が必要な児童へのより効果的な指導を求めて（2年次） |
| ⇩ | | | |
| 35 | 山口市立二島小学校 | 校長　辻本　紳一朗 | 主体的に考え、伝え合[illegible]もの育成 |
| 36 | 山口市立平川小学校 | 教頭　山下　恵美 | 自己肯定感を高め[illegible]道徳」の授業開発・評価に向[illegible] |
| ⇩ | | | |
| 3 | 萩市立大島中学校 | 養護教諭　岡　冴香 | つ[illegible]、子どもを守り育てる |
| 4 | 萩市立旭中学校 | 養護教諭　吉松　文子 | 子ど[illegible]とからだを支える　～見て聞いて感じてワクワク実践～ |

【個人の部】→【学校の部】→【グループの部】→【サークルの部】と続き、全85件の実践が収められています。

### 平成30年度　地域活性化活動奨励事業　助成団体一覧

| No. | 支部名 | 申請者 | 連携団体 | 活動名 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 岩国 | 岩国市立東中学校　校長　升本　雅巳 | 『ふるさと愛ネット』東中校区協育ネット協議会　会長　山本　榮次 | 校舎一体型・分離連携型小中一貫校の開校に向けて<br>地域とともに歩む東中・東小・装港小・小瀬小（『ふるさと愛ネット』東中校区協育ネットの推進）<br>東中学校と東小学校は校舎一体型、東中学校と装港小学校・小瀬小学校とは分離連携型として、2020年度に小中一貫校を開校する。その小中一貫教育を支え両輪となるものとして、『ふるさと愛ネット』（東中校区協育ネット競技会）を推進する。 |
| ⇩ | | | | |
| 31 | 周南徳山 | 周南市立久米小学校　校長　石田　勝己 | 久米小学校学校運営協議会　会長　岡本　修二 | 地域の方を学校に！！～市民ギャラリーの開催～（ｺﾐｭﾆﾃｨｰ･ﾙｰﾑの活用）<br>○１０月末　各団体への作品展示依頼<br>○１１月１９日～２２日　事前準備<br>○１１月２６日～１２月４日　市民ギャラリー開催 |
| ⇩ | | | | |
| 75 | 阿西 | 萩市立川上小学校　地域・学校活性化推進部　代表　保賀　信裕 | 川上小学校ＰＴＡ・ＣＳ　代表　厚東　満弘 | 地域と学校を元気にする会<br>○長門峡清掃<br>○カヌー教室阿武川下り<br>○小・中・地域大運動会会場整備<br>○安心で潤いのある地域づくり<br>花壇整備、見守り活動、読書推進、地域行事ボランティア |

# ふるさと東岐波、地域とともにある学校をめざして

宇部市立東岐波小学校
校長　平野　幸世

　東岐波小学校は、宇部市東部の国道沿いに続くフラワーロードの中程、遠く周防灘や阿知須との境にある日の山（通称象山）を見渡す丘陵地にある。今年、創立百四十七周年を迎える本校には、「東岐波の教育を大切にする風土」を末永く伝えたいという地域の願いを窺い知る大正時代の講堂「正明堂」の鬼瓦や当時の東条三郎校長先生の胸像が校訓碑の傍にある。また、樹齢百年近い老桜が卒業生によって幾度の移植と治療を経て、今も美しい花を咲かせ続けている。

　このような本校の歴史と伝統は、まさに地域や保護者、同窓生、そして数多の教職員が守り伝えてきた賜である。子どもたちにその心を伝え、ふるさと東岐波や母校への誇りと愛情を育んでいきたい。

## 小中一貫教育の充実
### ～東岐波をふるさととして九年間で育てる～

　東岐波中学校との小中一貫教育の目標を「自ら動くともに動く　東岐波っ子の育成」と設定した。この目標を達成するため、本校の学校教育目標である「高い志をもち、夢の実現に向けて意欲的に学ぶ子どもの育成」を通して、進んで仲間と力を合わせ、ひたむきに行動する東岐波っ子を育成することとした。

　昨年度、小中別や合同の学校運営協議会に全教職員やＰＴＡ役員も参加し、学校と家庭や地域がめざす子ども像とそれぞれの果たす役割等について熟議を重ねた。

　そして、育ちの共通実践目標を「人とのかかわり、生活習慣、責任感・チャレンジ、あいさつ、郷土愛」の五項目に定め、小中一貫カリキュラムにまとめた。今後は、学校評価にも位置付け、家庭や地域と連携しながら子どもの姿として実現させたい。

学校運営協議会・教職員・PTAによる熟議

　また、小中合同の研修会や授業研究等を通して、主体的・対話的で深い学びを小中でつなぎ、子どもたちの学力向上や教職員の授業力向上を図っていきたい。

## コミュニティ・スクールの充実
### ～東岐波地域協育ネット（きわぞうネット）で育てる～

　東岐波には遺跡や旧跡が多く、祭が引き継がれ、自然も豊かである。校内に「ふるさと東岐波資料館」が常設されており、これに代表されるように地域全体が「学校のためにできることは何か」という高いコミュニティ意識をもち、かかわってくださっている。

　例えば、低学年は昔遊びや「里海再生の会」と連携した作物の栽培、中学年は「郷土誌研究会」の協力等による地域学習、高学年は環境や平和の学習、さらに、クラブ活動では、約三十名の方から、茶道、華道、百人一首、囲碁・将棋、自転車、調理、手芸、環境等、多岐にわたる支援をいただいている。また、毎日登下校の安全を見守るスクール・ガード活動、年間を通しての花壇整備等々、数えきれない学校支援に感謝と敬意を表したい。

　今後も、本校ならではの地域資源や環境を生かしたコミュニティ・スクールの取組を深化させたい。

花ボランティアの方たちと・・・・

## チーム東岐波の推進
### ～すべては子どもたちのために～

　学校は、子どもたち一人ひとりが認められ、誰かの役に立つという達成感や自己肯定感をもち、安心して過ごすことができる学びの場でなければならない。そのためには、多忙な中にあっても、子どもに向き合う姿勢と心の余裕を常にもち、あるがままの姿をしっかりと受け止め、その裏にある気持ちに寄り添いながら、一人ひとりに応じた支援ができる、そんな教職員でありたい。そして、教職員一人ひとりが自らのよさや力量を発揮し、共に助け合うチーム東岐波としての雰囲気を醸成するとともに、子どもたちにとって大切な教育環境である教職員の笑顔を大切にしたい。

　一方、働き方改革を推進するため、行事の精選や削減、業務の共有化や簡略化等様々な改善に努めている。そのような中、ＰＴＡの学校応援団による読み聞かせや図書当番、学習プリントの印刷製本や棚整備等の支援をいただいており、本当に有り難く感謝している。

　今後も、子どもたちと、地域の方々や保護者、そして私たち教職員も東岐波総がかりで、小中一貫教育とコミュニティ・スクールを紡ぎ合わせながら、「地域とともにある学校づくり」をさらにめざしていきたい。

小中合同授業研究

# ワンランク上の学校をめざして
## ～「末武中が好き」といえる学校づくり～

下松市立末武中学校
校長　厚東　和彦

　本校は、昭和三十年四月に、第三中学校と第四中学校が統合され、末武中学校としてスタートしました。その後、昭和四十三年四月に、米川中学校を統合して、今の姿になっています。

　多くの中学校で生徒数が減少している中、本校は、近年の都市開発や大型商業施設の進出等により、生徒数が増加し、一昨年度から生徒数が九百名を超える、県内最大規模の学校となりました。生徒は、それを誇りに感じながら、日々落ち着いた学校生活を送っているところです。

　そんな生徒とともに、「末武中が好き」と多くの方に言っていただける、ワンランク上の学校をめざして、学校運営を進めています。

### 地域の人が好きになる末武中

　ある朝、正門前を通りかかったお年寄りが、被っておられた帽子を指さして「末中、末中」と言われるので、のぞいて見ると、本校の校章が入った古い学生帽でした。立ち去られる後ろ姿を追いながら、そのお年寄りは、末中の卒業生としての「プライド」をもっておられるのだろうと感じました。

　こうした脈々と受け継がれる「末中プライド」を体現している生徒の姿を、しっかりと地域に発信していくことで、地域の方に「末武中が好き」と思っていただけるのではないかと思っています。

### 生徒が好きになる末武中

　学校は、生徒が将来を生き抜く力を身に付ける場であり、我々教職員が、その支援に取り組む場であると思っています。

　そのためには、生徒にとって、学校が安心して過ごせる場であること、学びの場である授業が魅力的であること、学校行事を通じて、喜びと感動に加えて、自治力や主体性が育まれ、成長が実感できることなどが、生徒が「末武中が好き」と感じる大切な要素ではないかと思っています。

運動会応援合戦

### 教職員が好きになる末武中

　教職員が、各々の仕事に邁進できるためには、より良い職場環境が大切です。近年「学校における働き方改革」が叫ばれるようになりました。仕事には責任が伴いますので、「仕事をしない」という選択肢はありません。しかし、教職員が職責を全うしながらも、気兼ねをせずに、お互いが協力し合って、家族や大切な人と過ごす時間と仕事をする時間とのバランスが上手にとれるような職場でなければ、教職員が「末武中が好き」とは思えないのではないかと思っています。

### ワンランク上の学校をめざして

　私が考える「ワンランク上の学校」は、日頃は、それぞれが考えたり思ったりする方向を向いていても、何かのときに、関係者全員が同じ方向を向いて力を結集し、笑顔で明るく協働できる学校です。

マスコットキャラクター
末武士くん

　そうした学校づくりには、「校長の強いリーダーシップ」が必要だとよく言われます。妙な自信ですが、私にはその力は備わっていないという自信があります。

　しかし、管理職となり、素晴らしい生徒とともに、ワンランク上の学校をめざす以上、スピード感はありませんが、広くコンセンサスを得ながら、一歩一歩着実に進めていかなければなりません。

　そのためには、私自身が、教職員や生徒からだけでなく、保護者や地域の方からも信頼され得る管理職でなければならないと思っています。

　まだまだ信頼を得るに足る管理職とは言えませんが、多くの方々の御支援、御協力を得て、自分のできることを着実にやり遂げながら、信頼される管理職となるよう努力を続け、「県内最大規模の学校」というだけでなく、「県内で最も素敵なワンランク上の学校」をめざしたいと思っています。

花岡歌舞伎

## よい別れに向けて、はじめの一歩

岩国市立岩国小学校
教諭　佐藤　康子

「（さ）（と）（う）のように甘い（優しい）けれど（や）っぱり（す）ごく（こ）…」

学年始めは折り句で知的な面白さを演出します。「（こ）…」に続く言葉は一年間で考えてもらうことにして、「（こ）わくなるのは次の三つ。」と続けます。

**①命を大切にしないとき。②友達の一生懸命を馬鹿にしたり　笑ったりしたとき。③いじめをしたとき。**

素敵な仲間になるための楽しさと、譲れないことを初日に示します。

私は学級は安心して活動できる集団であることを願っています。そのためにこの三本の柱を基に、以下の二点を意識して指導しています。

一つ目は「言葉を大切に使うこと」です。もし、乱暴な言葉使いがあれば聞き逃さず、「なぜその言葉を使ったのか」「どんな言葉に置き換えると気持ちが伝えられるのか」「何を伝えたかったのか」時間をかけ子どもたちと一緒に考えます。使わない方がよかった言葉、使ってよかった言葉を積み重ねていくうちに言葉に傷つけられることが減り、安心できる仲間になっていくと考えます。

二つ目は、「**自主的な行動を支えること**」です。「人に迷惑をかけない」という約束を守って、自分で考えてとった行動は、認めることにしています。また、誰かのそんな行動を認め共に行動できる、そういう学級へと育てていきたいと思うのです。

こうして一年を過ごした学年末には、自信を持って子どもたちを新しい出会いに送り出したいと思います。

学年始めは、そんな子どもたちの姿を想像し、胸躍る気持ちでいっぱいです。

「先生は（や）っぱり（す）ごく（こ）どもずきだったね」。すてきな「（こ）…」をもらえるように。

まちづくりの提案に耳を傾ける子どもたち
「総合的な学習の時間」より

## ふるさとを愛する子どもたちに

美祢市立大嶺小学校
教諭　澁谷　寛子

「元気なあいさつ」「黙って一生懸命に掃除」「素直な心」、私は、いつも子どもたちに、この三つのことを学級開きの日に話します。その後ですぐに昇降口に行き、靴のかかとがそろっているかを子どもたちと一緒に確認し、乱れていたら直します。

私の初任地は東京都の大規模校でした。学校は、生徒指導上の課題に直面しており、何をどうしたらよいかわからなかった私は、体当たりで子どもたちと向き合い、いわゆる対処療法的な指導ばかりを繰り返していました。しかし、この三つのことを基本に、徹底的に子どもと向き合うことにより、子どもたちが少しずつ落ち着いて学習に取り組むようになりました。「常に子どもに寄り添い、決してあきらめない」こと、これが東京で私が学んだ最も大切なことです。

大嶺小学校では、コミュニティ・スクールを推進しています。教師の指導力で、子どもたちを導いていくことしか考えていなかった私にとって、学校が課題を開き、家庭や地域と一体となって協働し、子どもたちの学びや育ちを支援していく取組は、驚きであると同時に納得のできる新たな学びでした。

地域の方々とのふれあいを通して、子どもたちが、優しい気持ちになり、ふるさとを愛する心を育んでいくためには、「心からにじみ出るあいさつ」が大切です。このあいさつをもとに、地域の方々との心の通うふれあいを通して、子どもの内面に醸成される「ふるさとを愛する」優しさを、私の学級づくりに生かしていきたいと考えています。そのためには、まず、私自身が地域を一層知り、子どもたちとともに地域と強く結びつきたいと思っています。

地域安全マップづくり
地域の方から説明を受ける子どもたち

# 緊張感と温かい笑顔でつくる教室

長門市立仙崎中学校
教諭　峠田　敦子

入学式の前に、「緊張しちょる人？」と問いかけると、目を輝かせながらも全員が手を挙げる。「私も緊張しちょるんよ」と言うと、驚いた表情を見せた瞬間、笑顔になる。それは、進級する二年生、三年生でも同じだ。この四月のほどよい緊張感は、生徒にとっても教員にとっても、始まりの大切さ、互いの初心を共有できる大事な一歩になる。

そのほどよい緊張感をもちながら、学級開きの自己紹介を行う。理想は、学級全員が笑顔で自己紹介をすること。でも、自信をもって言える生徒ばかりではない。恥ずかしがりながら言う生徒、声を振り絞って言う生徒、場面緘黙で言葉がでない生徒など、あらゆる個性をもった生徒がいる。

学級全員が笑顔で自己紹介するために、研修で教わったことを応用し、動物の写真を用いた自己紹介を実践している。「〇〇のように、たくさんの友達とふれあいたい」「〇〇みたいに目標を高くして過ごしたい」など、自分が「こうありたい」と思うものを探して伝え合う。これを用いると、学級で初めて出会う仲間と自然と打ち解けていくから不思議だ。物を媒体することで安心感が生まれ、自信をもって紹介ができる。そして、共感で温まった心から、エネルギーに満ちた教室ができる。このエネルギーの舵取りが担任としての責務だと思っている。

一日や一週間の終わりを「〜したまま」にせず、言動や心に「。」を付けて笑顔で家に帰っている生徒たち。たくさんの仲間と過ごす中でほどよい緊張感と温かい笑顔で包まれたクラスから、どんなエネルギーが生まれてくるか楽しみだ。

学級写真（平成31年２月）

# 朝読書を有意義な時間に

下関市立日新中学校
教諭　藤野　貴一

私の担任としての一日のスタートは、十五分間の朝読書から始まる。日新中学校は八時二十分から三十五分まで全校で朝読書を行っている。

その時間をいかに有意義な時間とするかを私は大事にしている。朝読書に力を入れる理由は数多くあるが、その中でも人間の集中力の持続時間は十五分であることと、朝一番に活字を読み脳の活性化をはかるためだと考えている。

そのような中、生徒に集中して読書に取り組ませるために私が行っていることは、三つある。一つは、クラスの中で誰よりも早く読書を始めることである。誰よりも早く読書を始める理由は、まずは大人が読書している姿を生徒に見せるためである。二つ目は、読書の魅力を生徒に伝えることである。日々の生徒との会話の中で本の話をよくする。その際に、生徒から本の感想を聞いて、生徒の読書への取り組みを把握している。また、年度当初は時間をかけて朝読書の必要性や読書をするとどんな良いことがあるかを丁寧に子どもに伝えている。三つ目は、決して読書を強要しないことである。

年度当初は意欲的に朝読書に取り組むことができない生徒も数名いたが、私は決して読書しなさいなどと指導はしていない。あくまでも、生徒自身が自発的に朝読書に取り組んでほしいため、一つ目、二つ目で取り上げたことを根気強く行っていく。そうすると自然にクラス全体が朝読書に意欲的に取り組むことができるようになった。

一日のうちのたった十五分であるが、活字離れが囁かれている現代だからこそこれからも大切にしたいと考えている。

学級での朝読書の風景

# 晴耕雨「謡」

由宇支部
田中　徹

退職後、田畑山林で過ごすことが多くなりましたが、今は特に農機具の進歩や農地の基盤整備などで作業は大変楽しくできるようになりました。安全な野菜や米を栽培して東京にいる孫に贈り「じいちゃんの米が一番おいしい」と言われるのが何よりの喜びです。

また、地域の方々との交流も始まり、自治会長、営農組合役員、寺の総代、退職公務員連盟支部長などの活動に携わってみれば、けっこう苦労も多く、これらに関わっていなかった現職時代でも随分たくさんの方々にお世話になっていたのだということを改めて実感しました。そして、新たに多くの方々とのお付き合いが始まり、草刈り、清掃作業、盆踊り、忘年会、旅行などの行事を通じて、楽しく充実した日々を送っています。

一方、雨天の日は読書というのが決まり文句ですが、私もこの文句のとおり退職後に読もうと思って、少し難解な漢書の全集などを用意していました。けれども、残念ながら視力の衰えで読書はとても苦痛になりました。

しかし、私にはとっておきの趣味があります。それは謡曲です。学生の頃日本文学を専攻した関係で能に興味を持ち、源氏物語や伊勢物語などの名句名文が引用された能の詞章を謡う謡曲の手ほどきを受けました。在職中も地元の同好会に加入して練習してきました。退職後は師範の先生に入門して免状も取得、毎年数回催される発表会にシテやワキなどの役謡を努めて、能の幽玄の境地を模索しています。

ところで、高齢者がかかりやすい病は誤嚥性肺炎です。喉は呼吸・発声・食物嚥下を司る生命維持の重要な関門です。ここを鍛えることが長生きの秘訣ですが、謡曲の発声法は最適です。スポーツや農作業も健康法の一つですが、いずれは体が動かなくなる時が来ます。謡曲は声さえ出れば一生続けられるので、高齢者に最適の趣味だと思っています。

勧進帳免許取得発表会

# 「すみれ会」は心の栄養剤

光市部
重國　敏子

すみれ会というのは、二十年余り前、田布施町内の学校で一緒に勤めた仲良し三人で手芸やお喋りなどを楽しむ会です。事務職員のAさん、養護教諭のBさん、そして教諭の私です。職種が違うので、現職の頃は互いに違う観点から児童を見ることができたり、知らないことを教わったりしていい学びができたものです。

異動でスミレの花びらが散っていくのはまさに断腸の思いでしたが、Aさんが「月に一回でも集まって手芸をしながら、お喋りしましょうよ」と誘ってくださり、それから二十年にわたり、退職した今も続いております。

会場はいつもAさんのお宅。「まるで実家のようだね」と話しながら気兼ねなく集っています。バック、座布団、クッション、壁掛け、パソコンカバー・・・我が家を見渡すとすみれ会で制作したパッチワーク作品がいっぱいです。

始めて十年余り経った頃から、悲しいかな皆それぞれパッチワークの針目が見づらくなってきました。そこで今ではミシンを使った作品を主に作っています。これなら早いし、針目もそろってきれいです。Aさんに教えていただきながら、お財布などの小物、簡単な洋服などを作って活用しています。

時にBさんが、婦人会で習ってこられたお料理を伝授してくださり、主婦三人ですから手際よく仕上げ昼食にします。レシピも用意してくださるので、我が家の料理レパートリーも広がりました。

三人が集まれば心を開いて何でも話せます。体調のこと、子どものこと、介護のこと、老後のこと…安心して相談できます。

このような仲間に出会えたこと、今まで続いていることは、本当に幸せなことです。

「すみれ会」は私の心の栄養剤です。

作品の一部

# 前会長井上洋先生を偲んで

## トップの姿

山口支部　沖浦　初孝

朝早く携帯が鳴った。私が師と仰いでいる井上洋先生の訃報だった。ついこの前、ある会でご一緒したときは、お元気で「長生きせんにゃ損。皆さん長生きしましょう」と呼びかけておられたのに。米寿を迎えられたというのに。

先生との思い出が走馬燈のように駆け巡った。先生が昭和五十五年四月に開校した新南陽高校初代校長のとき、私は一期の先生として教壇に立った。教員になって十一年目で血気盛んな頃でもあった。

校長は新しい学校の創造に向けて、「リベラルな校風づくり」を提唱され、師弟同行で学校を創るには「衆には衆、個には個」という対応を示された。自分たちの手で新しい学校を創ろうと意気に燃えた生徒、教職員、保護者の師弟同汗の姿がそこにはあった。

また、校長は入学式の式辞において、「虚往実帰」という言葉を示された。これは中国の古典で荘子の徳充府第五にあるもので、心を虚にして往けば、ものの理おのずから得られ、腹を満たして帰ることができるということを、「学校には目的を持って来なさい。そして帰るときには満足して帰りなさい」と訳され、生徒たちに熱く説かれていた。

「虚往実帰」の石碑

三年後、一期生が卒業記念にこの言葉を石碑に刻み残した。表に「虚往実帰」、裏には「リベラルな精神をここに学ぶ　昭和五十八年三月　第一期生一同」と。その石碑は登校坂を登り切った校門の正面の庭に建っている。

私が校長から多くの薫陶を受けた中で、一番は、トップの姿である。学年始めに「君の学年だ。思うようにやってごらん。難しくなったら一緒に考えよう」と言われた。「一緒に考えよう」は、私にとって魔法の言葉のように聞こえた。最後の砦は校長だと胸に秘め、教職員一丸となっていろいろなことに取り組んで行った。

長時間思考に耐えられる力を付けるための八十分授業、酷暑に打ち克つ勉強三昧の二泊三日の夏期学習合宿、そして、武道の代わりにラグビーを校技とし、男子生徒全員が体育の授業で取り組んだ。当時は新日鉄釜石のラグビー部が全盛期で、日新製鋼チームと練習試合をするという情報が入り、校長の即断で午後の授業はラグビー観戦となった。一流のプレイヤーである大男たちの激しくぶつかり合う姿を間近で見た生徒が当番日誌の感想に、「校長偉い」と書いていた。この一言が、本物を見るチャンスを与えいただいた校長への感謝の気持ちではなかったかと思った。

さらには、リベラルな校風づくりを進める中で、一斉の服装検査を取り止めて生徒自らが守る自主規制に、三十kmを越えて歩く強歩大会、日本古来の伝統を受け継ぐ新春の凧揚げ大会、かるた大会など挙げれば切りがない。校長の新設校に寄せる熱い思いと強いリーダーシップの元で何でもできたと思っている。

「最後は私が責任をとる」と口にするトップがいる。トップが責任をとることは、当たり前のことであり、これは口に出す言葉ではない。いかにも親分肌で頼もしげにも見えるが、部下にとってはやる気はなかなか沸いてこないものだ。責任を取る前に、一緒に考え改善を図ることが大事であることは言うまでもない。

校長からは、部下を信頼し、寄り添い、温かく包み込みそして支えて行くトップの姿を身をもって教えていただいた。その後、その姿は私の道しるべとなった。葬儀に参列し、ご霊前に両手を合わせ、最後のお別れをした。先生、ありがとうございました。

## 終身会員の紹介

宇田川明惠　様（萩）

隅野　努　様（萩）

## 第二回通常理事会　二月一日(金)　山口県教育会館

### 議事

【第一号議案】　二〇一九年度山口県教育会事業計画書（案）について

【第二号議案】　平成30年度山口県教育会臨時評議員会の開催についてについて

第一号議案では、二〇一九年度の活動方針・事業計画・収支予算書について慎重に審議され、すべての議案が提案のとおり承認されました。

### 報告並びに協議

報告では、代表理事及び業務執行理事の自己の職務の執行状況について報告がありました。

協議では、第17回やまぐち教育の日・第46回教育県民大会山口大会について、平成30年度教育研究・地域活動等の助成事業について、平成30年度会員状況について成果と課題に関する意見交換を行いました。

## 臨時評議員会　二月十九日(火)　山口県教育会館

### 議事

【第一号議案】　二〇一九年度山口県教育会事業計画書（案）について

山口県教育会の二〇一九年度の活動方針・事業計画・収支予算書について慎重に審議された結果、議案は提案のとおり承認されました。

### 報告並びに協議

協議では、第17回やまぐち教育の日・第46回教育県民大会山口大会、平成30年度教育研究・地域活動等助成団体等について意見交換を行いました。教育県民大会は、どこの開催支部でも力を入れて取り組まれることから、多くの現職教員の参加を望む意見や柳井大会以降の大会規模等の見通し、助成事業の周知について意見が出されました。

第70回日本連合教育会研究大会
桐生大会

情報紙「山口県教育」

第17回やまぐち教育の日　山口大会
第46回教育県民大会

第９回教育維新・青年教師の集い

第31回「金子みすゞ賞」童謡詩
入賞者表彰式

# 一般財団法人　山口県教育会

# 入会のご案内

**会員になって、子どもも大人も夢をもって生きる豊かなコミュニティづくりを応援しませんか!!**

## あなたの会費をこんなことに役立てます

### 学校（園）の教育活動を支援します
・個人、学校（園）、グループ、サークルへの研究助成（コミュニティ・スクールの充実を含む）
・「青年教師の集い」の開催

### 地域活動を推進します
・「やまぐち教育の日・教育県民大会」の開催
・地域協育ネットの活動充実のための助成
・地区別教育振興フォーラム、史蹟探訪等の地域活動への助成

### 伝統文化を継承します
・「金子みすゞ賞」童謡詩募集
「わたしの志」作文募集
・地域の文化遺産や伝統文化の継承活動への助成

### 情報紙「山口県教育」を発行します
・会員相互の情報交流

詳しくは、ホームページをご覧ください
http://www.ykyoikuk.or.jp

## 入会にあたって

### 1　対象
・保育園・幼稚園、学校等の現職教職員と退職者
・一般県民、学校（園）のPTA会員、教育関係機関の職員、諸団体の職員

### 2　会費（年会費）
・通常会員・・・・・・・・2,000円（初年度は1,000円）
・賛助会員・・・・・・・・3,000円
・終身会員・・・・・・・50,000円（入会時のみ）

### 3　入会申込
・現職の教職員は、学校（園）の担当者に
・一般の方は、（一財）山口県教育会事務局、または、各支部（県内28支部）担当者に

（一財）山口県教育会（組織課）
TEL　083－922－0383
FAX　083－922－5768